

## 報道資料

平成26年4月23日

大阪市北区中之島2-2-7 中之島セントラルタワー  
NPO（特定非営利活動法人）日本の祭りネットワーク  
理事長：高松富博（ダイドードリンコ㈱取締役会長）  
副理事長：吉村作治（工学博士・早稲田大学名誉教授）  
副理事長：<sup>にがた</sup>苦田秀雄（同志社女子大学嘱託講師・  
日本の祭り研究所所長）

NPO（特定非営利活動法人）日本の祭りネットワークは以下の内容で、一般不特定の人を対象に「日本の祭り」についての意識調査を実施しました。祭りは時代を反映する鏡であり、生活者の指向性を示す要素を持ち、日本人が日本文化をどのようにとらえているかを推察することもできます。

この意識調査は、今年初めて実施し、今後も毎年同時期に行います。その中から、地域と祭りに関する日本人の文化観、価値観などの推移を計測します。

この調査結果を貴紙に掲載していただければ幸いです。

### 「日本の祭り」意識調査

調査機関：NPO（特定非営利活動法人）日本の祭りネットワーク

実施期間：2014年1月10日～19日

実施場所：東京ドーム「ふるさと祭りIN東京」NPO日本の祭りネットワークブース

対象祭り数：100件（別添）

調査方法：上記の実施場所に、全国の祭り100件の写真と、その概要説明を掲出し、調査用紙に記入してもらい、その場で回収

回収総数：3811

- 設問： 1 あなたの好きな祭りをお答えください（複数回答）  
2 あなたが行ってみたい祭りをお答えください（複数回答）  
3 あなたが行ったことのある祭りをお答えください（複数回答）  
4 あなたは「日本の祭り」が日本文化の中心であり、何代にもわたって継承すべき文化だと思いますか？  
5 あなたは「日本の祭り」が「和食」と同じようにユネスコ無形文化遺産に登録されるべきだと思いますか？

回答：あなたの好きな祭りをお答えください

- |    |                      |         |
|----|----------------------|---------|
| 1  | 青森ねぶた祭—青森県青森市        | (1022人) |
| 2  | 秋田竿灯まつり—秋田県秋田市       | (679人)  |
| 3  | 阿波おどり—徳島県徳島市         | (547人)  |
| 4  | 三社祭—東京都              | (528人)  |
| 4  | 秩父夜祭り—埼玉県秩父市         | (528人)  |
| 6  | よさこい祭り—高知県高知市        | (413人)  |
| 7  | 御柱祭—長野県岡谷市・諏訪市・茅野市ほか | (309人)  |
| 8  | 岸和田だんじり祭—大阪府岸和田市     | (297人)  |
| 9  | おわら風の盆—富山県富山市        | (285人)  |
| 10 | 相馬野馬追—福島県南相馬市ほか      | (244人)  |
| 11 | 盛岡さんさ踊り—岩手県盛岡市       | (231人)  |
| 12 | 博多祇園山笠—福岡県福岡市        | (193人)  |
| 13 | 平敷屋エイサー—沖縄県うるま市      | (167人)  |
| 14 | チャグチャグ馬コ—岩手県滝沢市      | (124人)  |
| 15 | 郡上おどり—岐阜県郡上市         | (115人)  |
| 16 | 長崎くんち—長崎県長崎市         | (113人)  |
| 17 | 西馬音内盆踊り—秋田県羽後町       | (111人)  |
| 18 | 龍勢祭—埼玉県秩父市           | (100人)  |
| 19 | くらやみ祭り—東京都府中市        | (92人)   |
| 20 | 山鹿灯籠まつり—熊本県山鹿市       | (89人)   |

回答：あなたが行ってみたい祭りをお答えください

- 1 青森ねぶた祭—青森県青森市 (835人)
- 2 阿波おどり—徳島県徳島市 (612人)
- 3 秋田竿灯まつり—秋田県秋田市 (524人)
- 4 よさこい祭り—高知県高知市 (484人)
- 5 御柱祭—長野県岡谷市・諏訪市・茅野市ほか (403人)
- 6 岸和田だんじり祭—大阪府岸和田市 (378人)
- 7 秩父夜祭り—埼玉県秩父市 (377人)
- 8 相馬野馬追—福島県南相馬市ほか (322人)
- 9 おわら風の盆—富山県富山市 (311人)
- 10 博多祇園山笠—福岡県福岡市 (280人)
- 11 平敷屋エイサー—沖縄県うるま市 (215人)
- 12 長崎くんち—長崎県長崎市 (196人)
- 13 盛岡さんさ踊り—岩手県盛岡市 (171人)
- 14 郡上おどり—岐阜県郡上市 (161人)
- 15 唐津くんち—佐賀県唐津市 (160人)
- 16 三社祭—東京都台東区 (156人)
- 17 チャグチャグ馬コ—岩手県滝沢市 (134人)
- 18 清内路の手作り花火—長野県清内路村 (123人)
- 19 山古志の牛の角突き—新潟県長岡市 (116人)
- 19 那覇大綱挽—沖縄県那覇市 (116人)

回答：あなたが行ったことのある祭りをお答えください

- 1 三社祭—東京都台東区 (828人)
- 2 青森ねぶた祭—青森県青森市 (596人)
- 3 秩父夜祭り—埼玉県秩父市 (565人)
- 4 秋田竿灯まつり—秋田県秋田市 (517人)
- 5 阿波おどり—徳島県徳島市 (292人)
- 6 おわら風の盆—富山県富山市 (216人)
- 7 くらやみ祭り—東京都府中市 (210人)
- 8 盛岡さんさ踊り—岩手県盛岡市 (207人)
- 9 御柱祭—長野県岡谷市・諏訪市・茅野市ほか (171人)
- 10 成田祇園祭—千葉県成田市 (169人)
- 11 よさこい祭り—高知県高知市 (165人)
- 12 博多祇園山笠—福岡県福岡市 (155人)
- 13 郡上おどり—岐阜県郡上市 (127人)
- 14 龍勢祭—埼玉県秩父市 (126人)
- 15 岸和田だんじり祭—大阪府岸和田市 (123人)
- 16 相馬野馬追—福島県南相馬市ほか (117人)
- 17 チャグチャグ馬コ—岩手県滝沢市 (103人)
- 18 長崎くんち—長崎県長崎市 (97人)
- 19 西馬音内盆踊り—秋田県羽後町 (91人)
- 20 平敷屋エイサー—沖縄県うるま市 (76人)

回答：あなたは「日本の祭り」が日本文化の中心であり、何代にもわたって継承すべき文化だと思いますか？

そう思う	3 7 1 6 人 (97.5%)
そう思わない	6 2 人 (1.6%)
解らない	1 0 人 (0.2%)
無記入	2 3 人 (0.6%)

回答：あなたは「日本の祭り」が「和食」と同じようにユネスコ無形文化遺産に登録されるべきだと思いますか？

そう思う	3 1 3 2 人 (82.2%)
そう思わない	5 0 5 人 (13.3%)
解らない	1 7 2 人 (4.5%)
無記入	2 人 (0.05%)

(調査対象者)

性別：男性	1 5 5 0 人 (40.7%)
女性	2 1 1 1 人 (55.4%)
無記入	1 5 0 人 (3.9%)

年齢：10代	1 1 1 人 (2.9%)
20代	3 8 6 人 (10.1%)
30代	6 8 6 人 (18.0%)
40代	6 9 5 人 (18.2%)
50代	6 3 6 人 (16.7%)
60代	8 0 9 人 (21.2%)
70代	3 3 9 人 (8.9%)
80代	2 3 人 (0.6%)
無記入	6 0 人 (1.6%)

「NPO（特定非営利活動法人）日本の祭りネットワーク」日本の祭り研究所分析

- 「好きな祭り」「行ってみたい祭り」は日本を代表するメジャーなもので、観客総数の多い「青森ねぶた祭り（青森県青森市）」「阿波おどり（徳島県徳島市）」「秋田竿灯まつり（秋田県秋田市）」などが上位を占めた。
- 「好きな祭り」は、日本人の特質として有名なものに憧れたり、好むことが理由であろう。「三社祭（東京都）」は、投票者が関東近辺の人が多数だったことと、神輿の上に乗ってはいけないなどのニュースが多かったため、上位にランクされたと思われる。
- 祭りのプロが一押しで奨める「おわら風の盆（富山県）」のランクが下位なのが不思議である。
- 「好きな祭り」の中で、「チャグチャグ馬コ（岩手県）」「龍勢祭（埼玉県）」「山鹿灯籠まつり（熊本県）」など、全国的に有名でない祭りを上げている人が多いのは幼いころの故郷の人々や山河の思い出に繋がっていると考えられる。
- 「行ってみたい祭り」の問いに対しては、10位以内のものは超有名なもので、日本人として生涯一度は行ってみたいと憧れるのだろう。但し、17位の「チャグチャグ馬コ（岩手県）」、18位の「清内路の手作り花火（長野県）」、19位の「山古志の牛の角突き（新潟県）」などそれほど有名ではないものが20位以内にランキングされているのは祭りに対する生活者の興味の幅の広がりを示している。
- 「行ったことのある祭り」は、調査場所が東京で、解答者の多くが関東近辺居住者であるため、1位が「三社祭（東京都台東区）」であり、「秩父夜祭り（埼玉県秩父市）」「くらやみ祭り（東京都府中市）」「成田祇園祭（千葉県成田市）」など、関東圏の祭りが上位を占めた。
- 祭りは時代を反映するため、世相が暗いほど元気で活発な祭りが好まれることが推測される。
- 私たちが12年にわたって240件の全国の祭りを調査・取材したところによれば、地方の無名の祭りに年々外国人観光客が多くなっているのが実感される。これは、外国人が日本文化の稀少性やミステリアスな部分に関心を示すように

なった結果と考えられる。その傾向は今後も増大するだろう。

- 祭りは観光客がもっと来てほしいというところと、できれば一定以上の観光客が来ないでほしい（祭りは地元の人を楽しむものとして残したい）というところに分けられる。両者の言い分はそれなりの説得力をもっているのだが、できればより多くの方がより多くの祭りを体験し、日本文化の素晴らしさを感じてほしいと思う。
- あなたは「日本の祭り」が日本文化の中心であり、何代にもわたって継承すべき文化だと思いますか？の問いに対しては圧倒的多数が「そう思う」と答えた。祭りが地域文化の核であり、地域の誇りであり、自然や先祖に対する畏敬の念、絆、地域の活性化など、大切な要素を内蔵していることが理解されていると思う。
- あなたは「日本の祭り」が「和食」と同じようにユネスコ無形文化遺産に登録されるべきだと思いますか？の問いに対して、圧倒的に「そう思う」だったが、「そう思わない」が若干あったのは、フリーアンサーで、「制約を受けるのではないか」の懸念があったからか。

分析：「NPO（特定非営利活動法人）日本の祭りネットワーク」副理事長  
日本の祭り研究所所長・苦田秀雄

（本件に対するお問い合わせ）

530-8262 大阪市北区中之島2-2-7 中之島セントラルタワー

NPO（特定非営利活動法人）日本の祭りネットワーク

事務局長：河上和正

TEL：06-6229-5566